

## ■ 定量目標の設定について

### 目標(2024年改訂版)

## 2040年度の関西広域経済圏の経済・産業の国内シェア25%、GRP額約150兆円

#### (考え方)

- “ビジョン”とは、「ありたい姿」「めざす将来像」など未来図を示すもの。故に、その実現に向け、バックキャストしながら、個別具体的な取組とその取組で成し遂げたい水準を導く機能を持つ。
- 先の改訂後、新型コロナウイルス感染症を経験し、さらには昨今の地政学的リスクの高まりなど、成長に水を差す状況もある。しかしながら、こうした課題も新たな局面(チャンス)とする気概をもって、関西広域連合構成各府県市や関係団体等の取組みに加え、関西広域連合及び連携団体とも協調し、共通の目標をめざし、弛むことなく挑戦しつづけていくことが必要である。
- 本ビジョンが目標年次とする2040年は、15年以上先であり、また、2025年の大阪・関西万博を控え、今まさに大きな変革途上にある。
- この間、本ビジョン改訂委員会での議論や、構成府県市との意見交換を通じて、こうした社会情勢下において、ビジョンが果たす機能(メッセージ性)が改めて重要と認識。
- 以上のことから、定量目標は、引き続きGDP/GRPの国内シェア25%をめざす、とする。なお、GRP値のみ、国の推計値に連動し、修正する。  
(2040年度の GDP推計値(594.7兆円)×25%=148.7兆円≒約150兆円)

#### (参考1)第2回改訂委員会における主な意見

- ・ 国内シェア22%という水準は、近年の社会情勢を踏まえた実現性という点では概ね妥当。
- ・ 一方で、必ずしも目標値を変更しないといけないものでもない。
- ・ 大阪府市が策定したビジョンでは、野心的な目標を掲げている。関西経済における大阪が占める割合は大きいので、全体として加速していくともいえる。

#### (参考2)構成府県市の主な意見

- ・ 関西に大きなインパクトをもたらす万博の効果はこれから。大阪、関西経済連合会も高い目標を掲げている中、今、目標値を変えるべきではない。
- ・ 大阪が核となって、関西を牽引するのであれば、シェア25%をいう水準を現時点で否定する必要はない。
- ・ 25%は、目標値としてわかりやすい(メッセージとして伝わりやすい)。